

平成18年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2007.3

小矢部市教育委員会

例 言

- 1 本書は、2006(H18)年度小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概報である。
- 2 調査は、小矢部市教育委員会が実施し、担当は次のとおりである。
調査事務 高木場万里（文化スポーツ課主任） 中井真夕（同上事）
現地調査 高木場万里 箕輪遺跡、桜町遺跡、宮中条里遺跡、HS23遺跡
蟹谷条里遺跡、埴生条里遺跡（以上試掘調査）
中井真夕 箕輪遺跡（立会調査）
大野淳也（文化スポーツ課主事） 中井真夕
葵塚・巴塚古墳群、松永窯跡群（現地確認・分布調査）
高木場万里 中井真夕
興法寺遺跡（現地確認）
- 3 調査の参加者は次のとおりである。
現地測量・実測等 田畑郁子
整理作業等 赤野和恵 西田芳江
- 4 現地調査の作業員は、(社)小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。
- 5 埴生条里遺跡の試掘トレンチ位置測量は、(株)太陽測地社に委託した。
- 6 本書の編集・執筆は高木場が担当した。
- 7 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目 次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
箕輪遺跡	4
桜町遺跡	5
宮中条里遺跡	6
HS23遺跡	7
蟹谷条里遺跡	8
埴生条里遺跡	10
報告書抄録	12

事業の概要

18年度の概要 2006（H18）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は9件である。内訳は試掘調査6件、立会調査1件、分布調査1件、現地確認1件である。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請にともなう問い合わせ等が10数件あった。

調査の原因となった開発行為別に見ると、個人の住宅建設に伴うもの、事務所建設・駐車場造成に伴うもの、新幹線建設に伴うもの、道路改良に伴うもの、溜池改修に伴うものなどさまざまである。また、原因となった事業者別に見た場合、個人3件、民間事業所2件、公共団体4件である。数年来の傾向としては、大規模開発、公共事業などに伴う調査は減ってきていたが、今年度は北陸新幹線建設をはじめ公共事業に伴う調査が多かった。

調査は、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助をうけて実施した。試掘調査を実施した6件については、改めて遺跡ごとにその概要を記することとし、立会調査、分布調査等を実施したものについて以下に簡単に記す。

立会調査

立会調査は、菘輪遺跡内における個人住宅建設に伴うものである。対象面積が138㎡と小さく、また盛土造成であったため擁壁工事に伴う掘削時に立会いをした。掘削は耕作土の範囲内であり、遺構・遺物は確認できなかった。

分布調査

分布調査は松永地内における清水谷池改修工事に伴うもので、池の土手幅を広げるために必要な土砂を周辺から土取りし、盛上しようとするものである。近隣に莢塚・巴塚古墳群、松永窯跡群が存在するため、土取り対象地域と盛土対象地域について、現地確認、土質調査時の立会及び分布調査を実施した。遺構・遺物は確認できなかったが、周辺は遺跡の密集地であることから慎重な対応をお願いした。

現地確認

現地確認は興典寺遺跡内における個人住宅の建設に伴うものである。対象地は数年前に盛土造成されてしまっており、現状は庭続きの畑として利用されていたため慎重工事とした。



立会調査（菘輪遺跡）

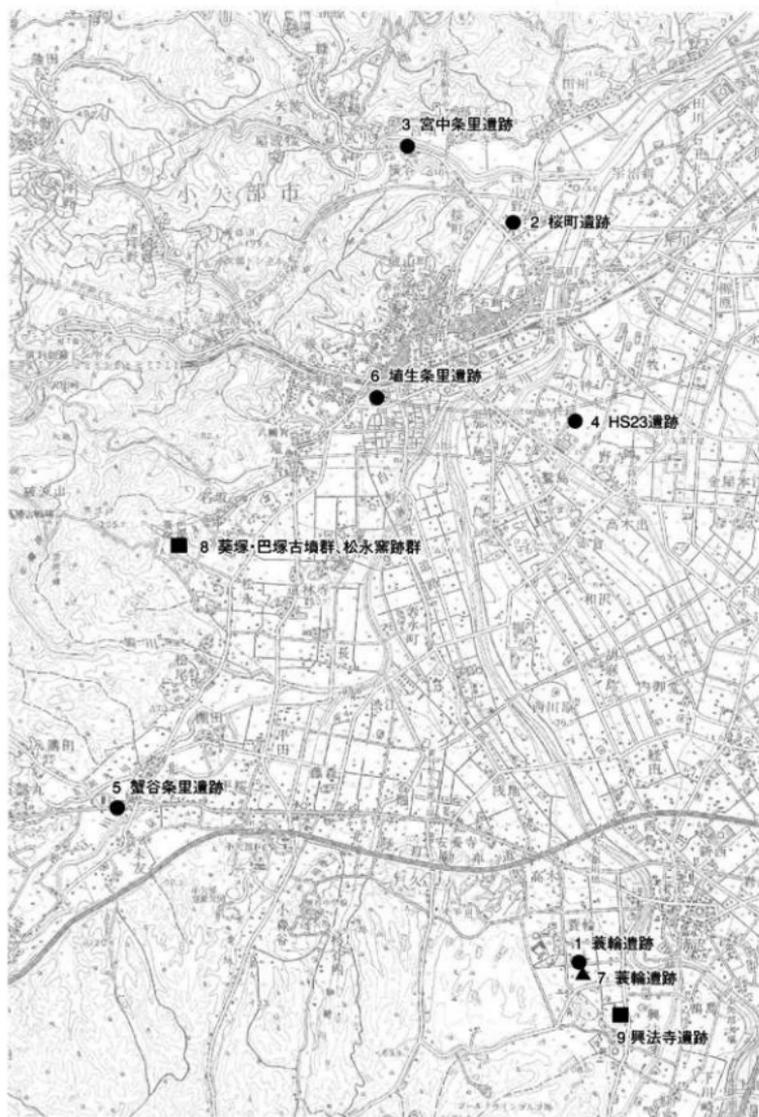


分布調査（莢塚・巴塚古墳群、松永窯跡群）

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期 間	調査結果	調査原因
1	菟輪遺跡	菟輪439-4	362㎡ (8㎡)	試掘調査	2006.4.26	遺構確認されず。 土師質土器出土。	事務所建設
2	桜町遺跡	西中野 380-1 ほか	403㎡ (19㎡)	試掘調査	2006.5.2 ～5.10	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
3	宮中桑黒遺跡	横谷1 ほか	3,500㎡ (58㎡)	試掘調査	2006.5.29 ～5.31	遺構確認されず。 遺物出土せず。	道路改良
4	HS23遺跡	小神54 のうち	450㎡ (22.8㎡)	試掘調査	2006.9.26	遺構確認されず。 遺物出土せず。	駐車場造成
5	蟹谷桑黒遺跡	末友103-2 ほか	1,442㎡ (38㎡)	試掘調査	2006.10.10 ～10.18	溝確認。 土師質土器出土。	道路改良
6	殖生永早遺跡	綾子字北島 433 ほか	14,300㎡ (279㎡)	試掘調査	2006.11.2 ～11.27	川跡(近代)確認。 須臾器出土。	北陸新幹線建設 河川付替
7	菟輪遺跡	菟輪568	138㎡	立会調査	2006.8.9	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
8	栗塚・巴塚古墳群 松永宮跡群	松永地内	10,000㎡	現地確認 分布調査	2006.10.28 ～11.28	遺構確認されず。 遺物出土せず。	灌池改修
9	興法寺遺跡	興法寺 344-3	239㎡	現地確認	2006.5.11	造成済み 慎重工事	個人住宅建設

市内遺跡発掘調査等事業位置図



●試掘調査 ▲立会調査 ■分布調査・現地調査

(1:50,000)

蓑輪遺跡



図1 調査位置
(1:5,000)

蓑輪遺跡は小矢部川の左岸の段丘上に立地する。今回の調査は事務所の建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の中央に位置する。現状は畑地である。

現地調査は2006 (H18) 年4月26日に実施した。調査期間は1日間である。調査対象地362㎡に耕作物を避けて1m×8mのトレンチを1ヶ所設定し、人力により掘削した。掘削面積は8㎡、最終的な掘削深度は80cmである。

基本層位はⅠ層:黒褐色土(畑耕作土)、Ⅱ層:黒色土、Ⅲ層:にぶい黄褐色粘質土である。遺構は確認できなかった。遺物はⅠ層から陶器片、Ⅱ層から土師質土器片が各1点出土した。



調査状況 (南から)

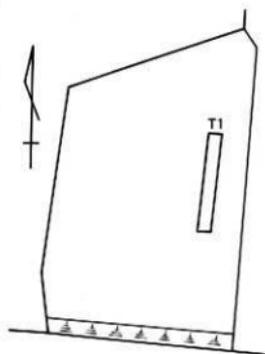
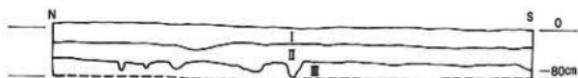


図2 調査区 (1:400)



- Ⅰ 2.5Y3/1黒褐色土(畑耕作土)
- Ⅱ 7.7Y2/1黒色土
- Ⅲ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土

図3 T1断面



桜町遺跡



図4 調査位置
(1:5,000)

桜町遺跡は市街地の北にあり、子撫川と小矢部川にはさまれた段丘上から丘陵裾に立地する。今回の調査は個人住宅の建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の南よりに位置する。現状は荒地である。

現地調査は2006（H18）年5月2日～10日までの3日間である。調査対象地403㎡に1m×4mの試掘トレンチを1本（T1）、1m×6mのトレンチを2本（T2・T3）、1m×3mのトレンチを1本（T4）計4本設定し人力により掘削した。掘削面積は19㎡、最終的な掘削深度は90cmである。

基本層位はⅠ層：極暗褐色土、Ⅱ層：暗オリーブ褐色土、Ⅲ層：オリーブ黒色粘質土、Ⅳ層：黒褐色ロームである。遺構、遺物ともに確認できなかった。T1において木製の桶状の構築物を確認した。上部に蓋を置き丸釘で固定してあった。内部はⅡ層と同様の土が詰まっていたが、遺物の出土はなかった。明治時代以降のものと考えられる。

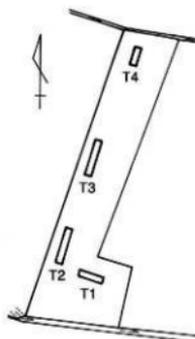


図5 調査区 (1:800)



図6 T2断面



調査状況（北から）

宮中条里遺跡



図7 調査位置
(1 : 5,000)

宮中条里遺跡は市北部丘陵の子撫川兩岸にひらけた段丘上に立地する。今回の調査は主要地方道小矢部津幡線の改良工事に伴うものである。調査地は遺跡範囲の中央東よりに位置する。現状は水田である。

現地調査は2006 (H18) 年5月29日～31日の3日間である。調査対象地3,500㎡に1m×8mの試掘トレンチを5本 (T2・T3・T4・T5・T6)、1m×6mのトレンチを3本 (T1・T7・T8) 計8本設定し、重機械により掘削した。掘削面積は58㎡、最終的な掘削深度は1m～1.4mである。T3東端で1ヶ所下層確認のため深堀をし、2.2mまで掘削した。

基本層位はⅠ層：灰色土（耕作土）、Ⅱ層：灰色土（Ⅰ層より細かく滑らか）、Ⅲ層：ぶい黄褐色土である。T3の深堀により、現表土下2.2mで暗褐色砂礫層（Ⅳ層）を確認した。遺構、遺物は確認できなかった。当該地は元来子撫川の河川敷であり、圃場整備により現在の高さに盛土整地されたものと考えられる。



調査状況（西から）

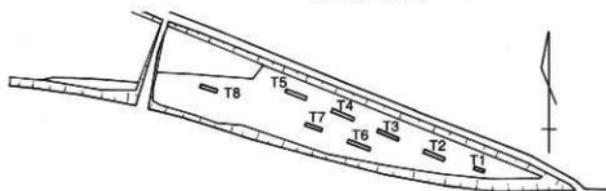


図8 調査区
(1 : 600)

HS 23 遺跡



図9 調査位置
(1:5,000)

HS23遺跡は小矢部川右岸の平野に立地する。2005〈H17〉年度に北陸新幹線建設に先立つ分布調査によって新たに確認された。今回の調査は新幹線建設予定地から200m南の水田で駐車場の造成工事が行われるため、遺跡の広がりを確認することを目的に試掘調査を実施した。

現地調査は2006 (H18)年9月26日に実施した。調査期間は1日間である。調査対象地450㎡に1.2m×8m (T1)、1.2m×11m (T2)の2本のトレンチを設定し、重機械により掘削した。掘削面積は22.8㎡、最終的な掘削深度は40cmである。T1の北端、T2の西端で下層確認のため深堀をし、1.5mまで掘削した。

基本層位はⅠ層：オリブ黒色砂質土（水田耕作土）、Ⅱ層：掘削土（圃場整備によるもの）、Ⅲ層：灰オリブ砂質土、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：黄褐色砂（粗い）、Ⅵ層：暗灰黄色砂（細かい）、Ⅶ層：砂礫層である。Ⅲ・Ⅳ層で炭化物の混入がみられたが、遺構、遺物は確認できなかった。



調査状況（西から）

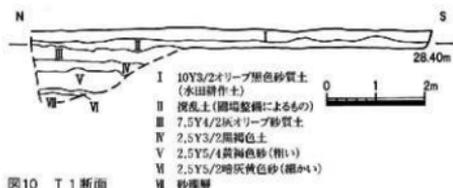


図10 T1断面

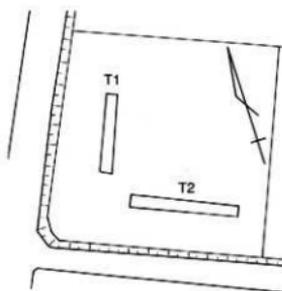


図11 調査区 (1:500)

蟹谷条里遺跡

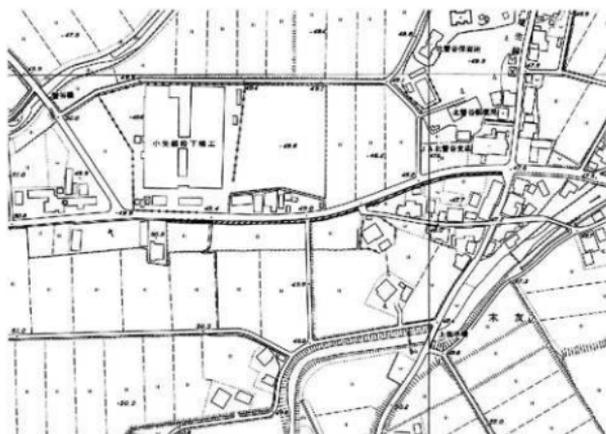


図12 調査位置
(1:5,000)

蟹谷条里遺跡は市南部を限る丘陵裾に広がる段丘上に立地する。調査は一般国道359号の歩道新設工事に伴うものである。現状は水田、畑地である。調査地は遺跡範囲の西端に位置し、すぐ南には向山遺跡、また渋江川をはさんで約1,000m南東には、中世寺内町の可能性が考えられる勝興寺安養坊遺跡がある。

現地調査は2006 (H18) 年10月10日～18日まで7日間である。調査対象地1,442㎡に1m×2mのトレンチを11箇所 (T1～T7、T9～T12)、0.8m×2.5mを1箇所 (T8)、1m×14mを1箇所 (T13) の計13箇所設定し、人力により掘削した。掘削面積は38㎡、最終的な掘削深度は0.8m～1.3mである。

基本層位はT2～T7ではⅠ層：オリブ黒色土 (水田耕作土)、Ⅱ層：攪乱土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：オリブ黒砂質土、Ⅶ層：灰オリブ粘質土である。T9～T11ではⅠ層：黒褐色土 (畑耕作土)、Ⅱ層：黒褐色土 (明褐色砂含む)、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：黒褐色砂質土である。T11～T13ではⅠ層：黒褐色土 (畑耕作土)、Ⅱ層：黒褐色土 (明褐色砂含む)、Ⅲ層：灰黄褐色粘質土、Ⅳ層：オリブ黒粘質土、Ⅴ層：暗オリブ粘質土である。

遺構は溝2本 (SD-01・SD-02) を確認した。SD-01はT11で確認した。北東～南西方向に流れる。遺物の出土はなく、時期は不明である。SD-02はT13で確認した。北西～南東方向に流れる。土師質土器と思われる遺物が1点出土したが、小片のうえ摩滅しており時期は不明である。

遺物はT3のⅤ層から土師質土器 (皿) が1点、T4のⅤ層からも土師質土器が1点出土した。Ⅵ層・Ⅶ層は多量の有機物を含み、板、木片、自然木などが出土した。T13のⅠ層・Ⅱ層からは土師質土器、陶磁器類などが入り混じって出土した。SD-02から出土した遺物は前述のとおりである。

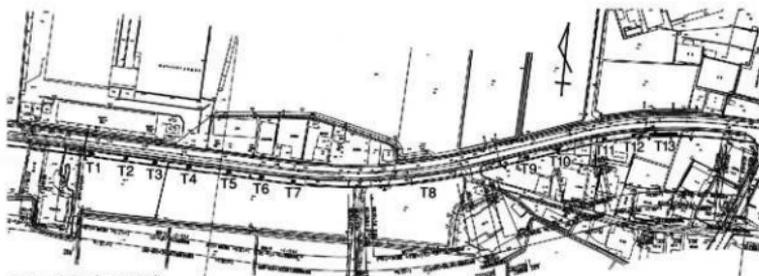


図13 調査区(1:2,500)

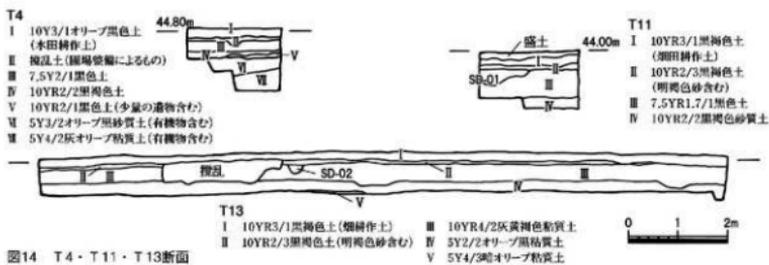


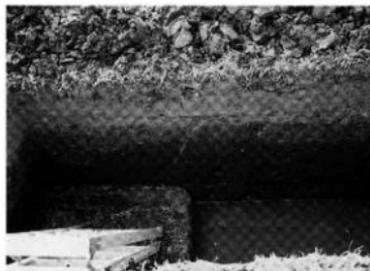
図14 T4・T11・T13断面



調査対象地 (西から)



調査状況 (東から)



T11断面



調査状況 (西から)

殖生条里遺跡



図15 調査位置
(1:5,000)

殖生条里遺跡は市街地の南、市西部を限る丘陵と市を南北に流れる小矢部川の支流洪江川にはさまれた段丘上に立地する。遺跡範囲の北端にあたる綾子地内において上地区画整理事業が計画されており、また北陸新幹線の通過ルートでもあるため、2005（H17）年度に開発予定の155,300㎡を対象に分布調査を実施し、土師器、珠洲を採集した。このうち北陸新幹線の建設用地及びそれに伴う一級河川砂川の付替工事用地について、関係機関と協議の結果、条里という遺跡の性格上、分布調査だけでは詳細を把握しきれないため、さらに試掘調査が必要であるとの結論を得、試掘調査を実施した。

現地調査は2006（H18）年11月2日～27日まで11日間である。調査対象地14,300㎡に幅1m、長さ4m～24mの試掘トレンチを24箇所設定し、重機械により掘削した。T15～T19は、畑が入り組んでおり、重機械が入れなかったため、人力により掘削した。掘削面積は279㎡、掘削深度は平均して70cmである。

調査の結果、T6～T9において川跡を確認した。現在調査地の南を流れる砂川が昭和40年代に改修されており、その旧河道と思われる。大正から昭和にいたる陶磁器類、瓦、ガラス片などが出てきた。T22の耕作土中から須恵器の小片が1点出土した。全体的に、耕作土以下は圃場整備等による盛土が厚く堆積し、さらに下層は有機物を含む細かいシルト層又は砂層が見られる。河川の氾濫原あるいは湿地状のところであったと考えられる。T11・T15～T20は、やや高台に位置する。今回の調査では遺構・遺物ともに確認できなかったが、T11の北側に隣接する水田で、分布調査の際に土師器片を採集している。T16・T20では耕作土直下で灰黄褐色粘質土の地山を確認した。本来はさらに標高があったと思われるが、隣接する工場の造成のさいに削平された可能性がある。

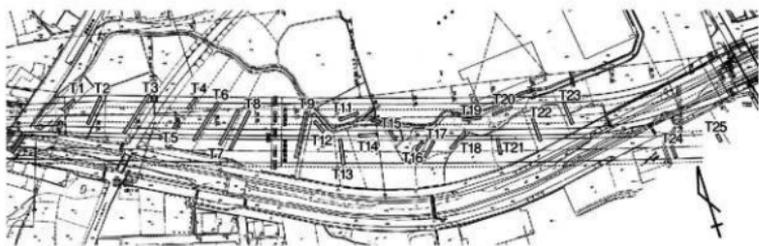


図16 調査区 (1:2,500)



調査対象地 (西から)



調査対象地 (東から)



調査状況



調査状況



T7 (南から)



T8 (北から)

報告書抄録

ふりがな		へいせいじゅうはちねんどうやへしまいぞうぶんかざいはいくつちようさがりほう					
書名		平成18年度小矢部市埋蔵文化財調査報告書第62冊					
シリーズ・番号		小矢部市埋蔵文化財調査報告書第62冊					
編者者名		高木場 万里					
編集機関		小矢部市教育委員会					
所在地		〒932-8611 富山県小矢部市木町1番1号 TEL 0766-67-1760					
発行年月日		西暦2007年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡	北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査 面積(m ²)	調査原因
資料 貫輪遺跡	小矢部市 貫輪439-4	16209 153	36°36'50"	136°53'15"	20060426	362	事務所 建設
松町 松町遺跡	小矢部市西中野 380-1 ほか	16209 021	36°41'00"	136°52'46"	20060502～ 20060510	403	個人住宅 建設
宮中条里 宮中条里遺跡	小矢部市 横谷1 ほか	16209 179	36°41'24"	136°52'06"	20060529～ 20060531	3,500	道路改良
H S 23 HS23遺跡	小矢部市 小神54のうち	16209	36°39'51"	136°53'10"	20060926	450	駐車場 造成
蟹谷条里 蟹谷条里遺跡	小矢部市末友 103-2 ほか	16209 187	36°37'43"	136°49'08"	20061010～ 20061018	1,442	道路改良
埴生条里 埴生条里遺跡	小矢部市綾子 字北島433 ほか	16209 185	36°40'01"	136°51'55"	20061102～ 20061127	14,300	北陸新幹線 建設 河川代替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
貫輪遺跡	散布地	中世か?	なし		土師質土器		
松町遺跡	集落		なし		なし		
宮中条里遺跡	条里		なし		なし		
HS23遺跡	散布地		なし		なし		
蟹谷条里遺跡	条里	中世か?	溝		土師質土器		
埴生条里遺跡	条里		川跡(近代)		須恵器		

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第62冊

平成18年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 2007年3月30日
編集・発行 小矢部市教育委員会
〒932-8611 小矢部市本町1番1号
TEL 0766-67-1760
印刷 株式会社 アヤト

